

## 英語の動詞 *sigh* の意味論 (The Semantics of the Verb *Sigh*)

小早川 暁 (Satoru Kobayakawa)  
獨協大学 (Dokkyo University)

キーワード：英語の動詞 *sigh*、呼吸ドメイン、  
プロファイル

### 1 はじめに

英語の動詞 *sigh* に対して英英辞典が与える語釈は2種類に大別できる。息の出入りに関して〈吸う〉と〈吐く〉の両方を含む語釈(1)と〈吐く〉のみを含む語釈(2)である。

- (1) to take and then let out a long deep breath that can be heard, to show that you are disappointed, sad, tired, etc[.]  
(OALD 8, s.v. *sigh*; cf. LDOCE 6)
- (2) When you sigh, you let out a deep breath, as a way of expressing feelings such as disappointment, tiredness, or pleasure.  
(COBUILD 7, sv. *sigh*; cf. CALD 4, MED 2)

タルミーによるアスペクト分類によれば、(1)は full-cycle に相当し、(2)は one-way resettable に相当する (Talmy 2000a: 63-64; 2000b: 67-69)。

そして、(1, 2)それぞれに、それを支持する証拠が見つかる。

- (3) a. You just sighed three times in a row.  
(K. Scott, *This Is So Not Happening*)  
b. He kept sighing. (Talmy 2000a: 48)
- (4) a. He {breathed in/inhaled} and (then) sighed.  
b. He {breathed out/exhaled} and (then) sighed.

(3)は *sigh* の繰り返しを表す表現である。ここで繰り返されているのは、吸って吐くことであり、吐くことではない。(3)によれば、*sigh* は〈吸

う〉と〈吐く〉の両方を表すようにみえる。(4a, b)は、息を吸ってため息をつくか、息を吐いてため息をつくかで異なる。共に容認される文だが、興味深いことに、(4a)の方が(4b)に比べてより慣習的な言い回し、特別な文脈を必要としない表現のようである。*sigh* が〈吐く〉を表すとすると、自然な呼吸の仕方(吸う、吐くの繰り返し)に合致するのは(4a)になる。*sigh* が〈吸う〉と〈吐く〉の両方を表し、〈吸う〉で始まるとすると、自然な呼吸の仕方に合致するのは(4b)になる。(4b)に比べて(4a)の方が慣習的であるという事実を捉えようとすれば、*sigh* が〈吐く〉のみを表すと考えるのが理に適う。*sigh* は「〈吸う〉と〈吐く〉」なのか「〈吐く〉」なのか。本稿では、二つの見方を統合する方途を探る。

ここで、タルミーの言う full-cycle と one-way resettable について補足しておこう。

- (5) a. \*The beacon flashed and then went off.  
[full-cycle]

- b. He fell and then got up.  
[one-way resettable]  
(Talmy 2000a: 63; 2000b: 68)

full-cycle は、逆方向の状態変化(たとえば、flash であれば、「明かりが点く」(暗い状態から明るい状態への変化)と「明かりが消える」(明るい状態から暗い状態への変化))を併せ持つものである(*sigh* が〈吸う〉と〈吐く〉から成るのであれば、full-cycle になる)。one-way resettable は、一方向的な状態変化(たとえば、fall であれば、立っている状態から立っていない状態への変化)を表し、繰り返すことができるものである(*sigh* が〈吐く〉のみから成るのであれば、one-way resettable になる)。

タルミーによれば、The beacon flashed. と He fell. は、反対表現 (expressions of reversal) (上掲の例の and then 以下の表現)と共起するか否かで異なる。(5a)は、暗い状態から暗い状態への変化を表すことになり、容認されない。

本論に入る前に、(6)のデータと、それに対するクロフトの解説(7, 8)を頼りに、研究対象となる言語データの性質について確認しておこう。

- (6) a. Jack ate<sub>1</sub> (= consume) a pizza with Jill.

b. Jack ate<sub>2</sub> (= dine) lunch with Jill.

(Croft 1998: 169)

(6a)と(6b)は共に容認される表現だが、それぞれ動詞の意味が異なる。それと連動して、目的語の表す意味も異なる。(6a)の a pizza は「食べ物」を表す目的語であり、(6b)の lunch は「食事」を表す目的語である。共に容認される表現だが、(6a)が使用されることはほとんどない。食事相手を表す表現 (with Jill) が使われるのは、食事をとるという意味の eat<sub>2</sub> が食事を表す目的語をとる場合のみであるというのがクロフトの観察である。詳細は、次の(7, 8)を参照されたい。

(7) [T]he syntactic collocates of eat 'consume' (with a type of food as direct object) and of eat 'dine' (with the name of a meal as direct object) are distinct: the comitative argument (referring to a fellow eater) occurs only with the latter use in the corpus. That is, one finds sentences of the type *Jack ate lunch with Jill* but not *Jack ate a pizza with Jill*, although the latter would be judged grammatical on introspection. (Croft 1998: 169)

(8) Most English-speaking linguists would not reject a sentence such as *I ate a pizza with Carol* as unacceptable. But it appears that one would rarely if ever actually say such a thing. . . . Grammatical unacceptability is only a weak indicator of the actual grammatical patterns in language use that tell us about the semantics of the words and constructions of the language.

(Croft 2009: 18)

より一般化した形で述べると、容認される表現には、よく使用される表現からほとんど使用されない表現まで、さまざまある。容認されるからといって、使用されるとは限らない。よく使用される表現とそうでない表現を識別し、両者の違いを説明しようとするならば、容認性の判断以外のデータを頼みとする必要がある (cf. Taylor 2012: 9-13)。

そこで、クロフトが利用した 200 万語から成るコーパスよりも規模の大きい 1 億語から成るコーパス (BNC) を検索してみると、食事相手を表す表現と食べ物を表す表現が共起する例 (動詞

は eat<sub>1</sub>) は、(9)にあげてあるように確認できる。とはいえ、この種の例は2例にすぎず、食事相手を表す表現と食事を表す表現が共起する例の方が多く見つかる。(10a, b)を参照されたい。

(9) a. [She] ate<sub>1</sub> **peanut-butter sandwiches with her children**[.] (BNC, ACS 879)

b. He ate<sub>1</sub> **pork chops in tomato sauce with us** that evening[.] (BNC, FAT 725)

(10) a. Eater<sub>SBJ</sub> eat Food Item<sub>OB</sub> with Co-Eater<sub>OBL</sub>  
BNC では 2 例

b. Eater<sub>SBJ</sub> eat Meal<sub>OB</sub> with Co-Eater<sub>OBL</sub>  
BNC では 9 例

ある表現が見つかるか否か、あるいは、どの程度見つかるかは、コーパスの規模による。ここでは、ある表現が容認されるか否かではなく、よく使用される表現とあまり使用されない表現の違いを意味あるものと見なし、これを説明の対象とし、必要に応じてウェブ (特に Google Books) をコーパスとして利用する。

## 2 sigh の意味構造

本稿では、sigh が表す意味の一部 (physical domain に関わる意味) は呼吸ドメインとプロファイルにより捉えられることを論証する (Taylor 2003: 87-90 の Monday の分析を参照)。具体的には、①呼吸ドメインは〈吸う〉と〈吐く〉をまとまりとする単位の繰り返しから成り (ただし、最後は〈吸う〉)、②sigh は呼吸ドメインを構成する単位の一部である〈吐く〉をプロファイルする。 (cf. inhale, breathe in, yawn, gasp, etc.) これを図式化すれば、(11)のようになる。(11a)は呼吸ドメインを表し、(11b)は sigh の意味構造を表す。(12)に示してあるのは、吸うと吐くの単なる繰り返しである。これは、ここで退けられる考え方である。

(11) a. [〈吸う〉 - 〈吐く〉] … [〈吸う〉 - 〈吐く〉] … [〈吸う〉 - 〈吐く〉] - 〈吸う〉

b. [〈吸う〉 - 〈吐く〉] … [〈吸う〉 - 〈吐く〉] … [〈吸う〉 - 〈吐く〉] - 〈吐く〉

(12) … 〈吸う〉 - 〈吐く〉 - 〈吸う〉 - 〈吐く〉 - 〈吸う〉 - 〈吐く〉 …

以下では、まず、(11a)の呼吸ドメインを例証する。その過程で、呼吸ドメインが(12)のような、

単なる〈吸う〉と〈吐く〉の繰り返しから成るのではないことを確認する。次に、*sigh* が呼吸ドメインの一部をプロファイルすることを示す。

呼吸ドメインについて論じるにあたり、まず、呼吸に関する基本語 *breathe* が呼吸ドメインを反映すると仮定する。(13)に示すように、*sigh* については対立していた2つの辞書が、*breathe* については、ほぼ同様の語積を与えている。

- (13) a. to take air into your lungs and send it out again through your nose or mouth[.] (OALD 8, s.v. *breathe*)  
b. When people or animals breathe, they take air into their lungs and let it out again. (COBUILD 7, s.v. *breathe*)

(13a, b)は、どちらも *breathe* が〈吸う〉と〈吐く〉から成ることを示している。

これと併せて、*breathe* が繰り返しを表すという母語話者の直観により、呼吸ドメインが〈吸う〉と〈吐く〉の繰り返しから成ることが確認できる (cf. Talmy 2000a: 49, 63; 2000b: 68)。

さて、呼吸ドメインの身体的基盤であると考えられる呼吸運動は、吸う、吐くを繰り返すのが自然であり、吸うのを繰り返したり、吐くのを繰り返したりするのは自然ではない (cf. Hewitt-Taylor 2011: 60)。これを反映して、吸うと吐くの等位接続表現は、吸うと吸うや、吐くと吐くの等位接続表現よりも多く見つかる。

(14-16)は、BYU-BNC (Davies 2004-) と COCA (Davies 2008-) を調査した結果である (以下、コーパスは 2014 年 9 月 15 日に参照)。

- (14) a. *breathe in and (breathe) out* [13, 83]  
b. *inhale and exhale* [3, 61]  
(15) a. *breathe in and (breathe) in* [0, 0]  
b. *inhale and inhale* [0, 1]  
(16) a. *breathe out and (breathe) out* [0, 0]  
b. *exhale and exhale* [0, 0]

角括弧内の左側には BYU-BNC での数、右側には COCA での数を記してある。(14)は吸って吐くを表す表現で、BYU-BNC と COCA を合わせると 160 になる。(15)は吸って吸うで、両方を合わせても 1、(16)は吐いて吐くで、0 である。

呼吸ドメインは、典型的な呼吸の仕方を表す。

そこから逸脱するものは非典型的な呼吸であり、そのような呼吸の仕方を描写する表現は特別な文脈を必要とし、典型的な呼吸の仕方を描写する表現と比べてあまり用いられず、用いられる際には特別な意味をもつことになる。以下、(17a, b)にあげる例は、それぞれ、吸うのを繰り返す表現と、吐くのを繰り返す表現である。

- (17) a. Being misunderstood is like having to breathe in and in and in again with no out-breath. The lung hurts and the sorrow can become a physical pain.  
(T. M. Finser, *Organizational Integrity*)  
b. When we make a non-stop dash toward recovery from a disaster, it's like breathing out and out and out and out—until one has to gasp for air! God can breathe out and out and out the breath of life, but we who are not the Creator were created to breathe in as well as out.

(G. L. Harbaugh, *Act of God/Active God*)

(17a, b)が示すように、自然でない呼吸の仕方を表す表現は、好ましくないことを表すのに用いられる。これは、心の乱れが呼吸の乱れにつながることによる。心のあり方と呼吸のあり方は換喩的な関係にあるといえる (contra Fesmire 1994)。

次に、呼吸ドメインが〈吸う〉と〈吐く〉を単位 ([〈吸う〉 - 〈吐く〉]) とする根拠を述べよう (cf. Talmy 2000a: 63; 2000b: 68)。

まず、(18)にあげるような語があることそのものが、〈吸う〉と〈吐く〉がまとまりを成すことを示している (なお、*suspire* には *sigh* の意味もあり、呼吸とため息の接点となっている)。

- (18) *breathe, respire, suspire*

また、(19)のような、*a breath cycle* や *a breathing cycle* という表現 ([〈吸う〉 - 〈吐く〉]) というまとまりを表す) の存在も、ここでの主張の裏付けとなる。

- (19) a. During quiet respiration, about 40% of a **breath cycle** is devoted to inspiration, and expiration takes up about 60% of the cycle. (J. Kreiman and D. Sidtis,

*Foundations of Voice Studies*)

- b. [I]nstruct the client to attempt to stretch out a **breathing cycle** to a count of about 8 seconds. This can be 4 or 5 seconds breathing in and 3 or 4 breathing out. (D. H. Barlow and J. A. Cerny, *Psychological Treatment of Panic*)
- c. A **respiratory cycle** is a single cycle of inhalation and exhalation. (F. H. Martini, *Anatomy and Physiology*)
- d. [T]he verb *breathe* suggests greater fusion across **its inhalation-exhalation cycles** than does the locution *take breaths*.

(Talmy 2000a: 57)

さらに、〈吸う〉を表す表現と〈吐く〉を表す表現は概念的にまとまりを成す。(20a, b)の回数表現は〈吸う〉と〈吐く〉の合計を表すが、これは、(21a, b)における回数表現が合計を表すのと並行的である。

- (20) a. She *breathed in*, *breathed out* three times before climbing the half-repaired steps and going into the house.  
(N. Roberts, *Sea Swept*)
- b. We breathe a lot. At rest we inhale and exhale about 12 times per minute on average. So, someone who's 20 years old has already taken 126,144,000 breaths. That's a lot of breaths.

(J. Reynolds, *Trumpet for Dummies*)

- (21) a. Before he left for London in 1737, Johnson had tried and failed three times to become a schoolteacher. (C. N. Parke, *Samuel Johnson and Biographical Thinking*)
- b. He was released at age thirty-nine after spending almost half his life in prison, tried and convicted three times for a crime he didn't commit.

(I. G. Goldman, *Sick Justice*)

また、次の(22)は、〈吸う〉と〈吐く〉が慣習的に1つとして数えられることを示している。

- (22) a. Count one inhalation and one exhalation as one respiration. (B. R. Hegner, B. Acello,

and E. Caldwell, *Nursing Assistant*)

- b. Count one breath in and out as 1, the next breath in and out as 2, and so on. (G. Andrews et al., *The Treatment of Anxiety Disorders*, 2nd ed.)

ここで少し観点を变えて、*breath* という名詞を観察してみよう。*breath* は〈吸う〉と〈吐く〉の両方を表したり〈吸う〉や〈吐く〉を表したりする。

- (23) a. She stood for a moment, hardly able to draw breath, hardly able to think.

(P. Wentworth, *Girl in the Cellar*)

- b. [C]lose your eyes, take a deep breath, and slowly as you let your breath out, say, "Thank you, Lord." (D. Vaughan, *Do You Know How to Pray As You Should?*)

(23a)の *draw breath* の *breath* は吸って吐くことを表し、(23b)の *take a deep breath* の *a breath* は吸うこと、*let your breath out* の *breath* は吐くことを表す。これは、モノ化の対象が〈吸う〉と〈吐く〉から成る〔〈吸う〉-〈吐く〉〕であると考えることにより説明できる事実である。

ここで、繰り返しの単位を〔〈吸う〉-〈吐く〉〕と考え、〔〈吐く〉〕-〔〈吸う〉〕と考えないのは、吸って吐くという表現が、吐いて吸うという表現よりも多く見つかるという事実による (cf. Cooper and Ross's (1975: 67) "Me First" principle)。概念的に、まとまりを成す単位が〔〈吸う〉-〈吐く〉〕であると考えれば納得のゆく事実である。

以下、(24, 25)に BYU-BNC と COCA の検索結果をあげておく (表記については、前掲のデータと同様である)。

- (24) a. breathe in and (breathe) out [13, 83]
- b. inhale and exhale [3, 61]
- (25) a. breathe out and (breathe) in [1, 3]
- b. exhale and inhale [0, 2]

(24)は(14)で確認したものと同一、吸って吐くのデータで合計 160 である。他方、(25)に示すように、吐いて吸うのデータは合計 6 である。次の(26)はこの結果を裏付けるデータである。

- (26) in and out/??out and in (Ariel 2010: 44)

さらに、呼吸に関して(27)のような助言がされるのも、通例は〔〈吸う〉-〈吐く〉〕が単位

であることを示していると理解できる。

(27) Try starting each breath cycle with an exhalation. Rather than breathing in and breathing out, switch to “breathe out, breathe in.” Close your eyes and repeat to yourself several times: “Breathe out, breathe in.”

(Scheinbaum 2012: 45)

次に呼吸ドメインの始まりと終わりについて確認しておこう。英語には(28a, b)のような慣用的な言い回しがある。

(28) a. draw one’s first/last breath

b. The moment we take our last breath on earth, we take our first breath in heaven.

(H. Lockyer, *All the Promises of the Bible*)

one’s first breath は生まれ出た時の息を表し、one’s last breath は亡くなる時の息を表す。

(28a)だけでは息の出入りに関しては不分明だが、(28b)によれば、どちらも吸うであることがうかがわれる (cf. take a deep breath)。

さらに、draw one’s first breath や take one’s last breath が使われるのと同様の文脈で take one’s last gasp という表現が使われる。gasp は吸気を表すので one’s last breath についても同様に考えてよいであろう。以下、(29)に、最初と最後がいずれも吸気であることが確認できるデータをあげておく。

(29) a. A newborn baby takes in a long deep breath, and as it exhales, its life on Earth begins. Likewise, when it is time to die, we take one last gasp for air before death occurs. From the first breath to the last breath, to breathe is to live.

(M. Seidman, *Balancing the Chakras*)

b. The baby may draw its first breath as soon as the chest is freed, or when the entire baby emerges. There is a pause, the lungs then inflate, and with the first exhalation breath may make a sound or cry as the air passes through the vocal cords. (C. A. Bean, *Methods of Childbirth*)

以下では、sigh が呼吸ドメインを構成する〔吸う〕－〔吐く〕という単位の〔吐く〕を

プロファイルすることを論じてゆく。まず、sigh が〔吐く〕の意味をもつという点では、上で参照した2種類の英英辞典は一致している（さらに、sigh が uniplex で punctual aspect を表すことについては Talmy 2000a: 48, 2000b: 281 を参照）。sigh が〔吐く〕をプロファイルするのは、ため息の呼気が普段の呼気より長く、音を伴うため、注意を引くことがその契機となる。

また、(30)が示唆するように、呼吸にかかわる一連の語（すなわち、呼吸ドメインに基づいて捉えられる一連の語）は息の出入りという点で対立している。息の出入りというのは、呼吸にかかわる動詞を捉えるのに有意義な観点である。sigh は〔吐く〕をプロファイルするという点で、〔吸う〕をプロファイルする yawn や gasp などと対立する。

(30) Explain each of the following in terms of breathing in and out: a yawn, a gasp, a cough, a sigh, a laugh.

(M. Roberts and N. Ingram, *Biology*, 2nd ed.)

ところで、ある種のドメインは、その構成要素の間に順序の概念を含んでいる。そのようなドメインを背景とし、構成要素のプロファイルによって捉えられる語には順序がある。たとえば、曜日とは週のドメインを背景とし、週のドメインには順序がある。そして、曜日はその順序に従う形で把握される。この順序は、(31)のようなテストによって確認できる。(31a)は週のドメインに合致するが、(32b)は合致しない。

(31) a. Sunday {is followed by/comes before} Monday.

b.??Monday {is followed by/comes before} Sunday.

これと同様のことが呼吸ドメインについても言え、吸って吸うこと、吐いて吐くことは、呼吸ドメインに合致しないことになる。

さて、ここで話を sigh に戻すと、通例、この動詞は punctual aspect を表すとされる。たとえば、Talmy (2000b: 281)は She sighed at exactly 3:00.といった例により、それを例示している。語彙的アスペクトの観点からは確かにそうであるが、sigh が表すため息の意味（すなわ

ち、sighのプロファイル)は広がりをもつといった側面もある。(32a)ではsighが深さに由来する程度副詞を伴っており、(32b)ではsighが継続時間表現for a few secondsを伴いながら、繰り返してなく、長いため息を表している(cf. He coughed for a few seconds.)。そして、(33)はため息の3つの局面について指摘している。

- (32) a. He sighed {deeply/shallowly}.  
(cf. He heaved a {deep/shallow} sigh.)  
b. Charlie then sighed for a few seconds before continuing to ponder.  
(J. Green, *Mind Diversion*)
- (33) Every sigh has a beginning, middle, and end with a stress somewhere along the timeline. (Stern 2010: 142)

それでは、sighが広がりをもつとすれば、どのような内部構造をもつのだろうか。以下では、sighが〈吐く〉で始まり〈吐く〉で終わることを明らかにする。sighが〈吐く〉で終わることは、(34a, b)のデータによって確認できる。

- (34) a. He sighed and (then) {breathed in/inhaled}.  
b. He sighed and (then) {breathed out/exhaled}.  
(cf. Talmy 2000a: 63; 2000b: 68)

(34a, b)は共に容認されるが、sighのあとに〈吸う〉が続く(34a)の方が、sighのあとに〈吐く〉が続く(34b)よりも多く見つかる。(35, 36)は、Google Books (books.google.com) による検索の結果である。セーフサーチはオフにし、言語設定は英語とした(2014年9月15日参照)。

- (35) a. sighed and (then) {breathed in/inhaled} 59件  
b. sighed and (then) {breathed out/exhaled} 20件
- (36) a. sighed and (then) {breathed in/inhaled} deeply 20件  
b. sighed and (then) {breathed out/exhaled} deeply 2件

以上の結果は、sighが〈吐く〉で終わるのであれば、予想される結果である。(35a)では〈吐く〉のあとに〈吸う〉が続き、呼吸ドメインに合致

するが、(35b)では〈吐く〉のあとに〈吐く〉が続き、呼吸ドメインに合致しない。呼吸ドメインに合致する方が多く生じるのは道理である。(36)においては、deeplyという副詞が加わることにより、aの文とbの文の間の差は、(35)よりも、さらに大きくなる。(36b)が、(35b)と比べると、呼吸ドメインからの逸脱が大きくなるからである。

sighが〈吐く〉で始まることは、(37a, b)のデータによって確認できる。これらは、(34a, b)の前後を入れ替えたものである(大槻まい氏による)。

- (37) a. He {breathed in/inhaled} and (then) sighed.  
b. He {breathed out/exhaled} and (then) sighed.

ここでは、〈吸う〉のあとにsighが続く(37a)の方が、〈吐く〉のあとにsighが続く(37b)よりも多く見つかる。sighが〈吐く〉で始まるのであれば、〈吐く〉よりも〈吸う〉のあとに多く生じるのは当然である。(38, 39)は、(35, 36)と同様、Google Booksによる検索の結果である。

- (38) a. {breathed in/inhaled} and (then) sighed 62件  
b. {breathed out/exhaled} and (then) sighed 23件
- (39) a. {breathed in/inhaled} deeply and (then) sighed 116件  
b. {breathed out/exhaled} deeply and (then) sighed 7件

(38a)は〈吸う〉のあとに〈吐く〉が続き、呼吸ドメインに合致するが、(38b)は〈吐く〉のあとに〈吐く〉が続き、呼吸ドメインに合致しない。そのため、(38a)の方が(38b)よりも多く生じる。deeplyを付け加えた(39)において、aの文とbの文の間の差がさらに大きくなるのも、上と同様の理由による。

ここで、名詞のsighを観察してみよう。この語は、上で確認したbreathとは違い、〈吐く〉の意味しかもたない。この事実は、動詞のsighが〈吐く〉をプロファイルするという考え方と調和するものである。

- (40) a. Mrs. Capps drew a sigh. . . (cf. 23a)

(J. Stringfellow, *Faith Walks*)

- b. Carl took a deep sigh. . . . (cf. 23b)  
(P. M. Dubal, *Crimes against Humanity*)
- c. [He] let a deep sigh out. (cf. 23b)  
(R. Mellito, *The Halford Colony*)

(40a, b, c)は、それぞれ動詞が異なるにもかかわらず、いずれも、ため息をつくという意味を表す。

次の(41)は、*breath* と *sigh* が等位接続されている例である。それぞれ同じ動詞を共有しながら、くびき語法にならず、(23)と(40)で確認した通りの意味解釈がなされている。

- (41) a. Rockwell drew a deep breath and a sigh of relief. (W. H. Schmalz, *Hate*)
- b. Dan took a deep breath and a sigh.  
(T. Harding, *Let's Go Get'em*)
- c. He let out his breath and a sigh of relief.  
(D. M. Cece, *The Rodeo Southwest*)

### 3 むすび

ここでは、呼吸ドメインが〔吸う〕-〔吐く〕という単位の繰り返しから成り、〔吸う〕で終わることを明らかにした。そして、*sigh* はその単位の〔吐く〕の部分のプロファイルする。つまり、〔吸う〕と〔吐く〕は非対称的な関係にある。英英辞典の *sigh* に関する2種類の語釈は、プロファイルに加え、呼吸ドメインの〔吸う〕を語釈に含めているか否かで異なるものと理解できる。

#### 参考文献

- Ariel, Mira. (2010) *Defining Pragmatics*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Cooper, William E. and John Robert Ross (1975) "Word Order," *Papers from the Parasession on Functionalism*, ed. by Robin E. Grossman, L. James San, and Timothy J. Vance, 63-111, CLS, Chicago.
- Croft, William (1998) "Linguistic Evidence and Mental Representations," *Cognitive Linguistics* 9, 151-173.
- Croft, William (2009) "Connecting Frames and Constructions: A Case Study of *Eat* and *Feed*," *Constructions and Frames* 1, 7-28.

Davies, Mark. (2004-) *BYU-BNC*. (Based on the British National Corpus from Oxford University Press). <<http://corpus.byu.edu/bnc/>>

Davies, Mark. (2008-) *The Corpus of Contemporary American English: 450 million words, 1990-present*. <<http://corpus.byu.edu/coca/>>

Fesmire, Steven A. (1994) "Aerating the Mind: The Metaphor of Mental Functioning As Bodily Functioning," *Metaphor and Symbolic Activity* 9, 31-44.

Hewitt-Taylor, Jaqui (2011) *Working with Children Who Need Long-Term Respiratory Support*, M & K Update, Keswick, Cumbria.

Scheinbaum, Sandra (2012) *How to Give Clients the Skills to Stop Panic Attacks: Don't Forget to Breathe*, Jessica Kingsley Publishers, London.

Stern, Daniel N. (2010) *Forms of Vitality: Exploring Dynamic Experience in Psychology, the Arts, Psychotherapy and Development*, Oxford University Press, Oxford.

Talmy, Leonard (2000a) *Toward a Cognitive Semantics, Volume I: Concept Structuring Systems*, MIT Press, Cambridge, MA.

Talmy, Leonard (2000b) *Toward a Cognitive Semantics, Volume II: Typology and Process in Concept Structuring*, MIT Press, Cambridge, MA.

Taylor, John R. (2003) *Linguistic Categorization*, 3rd ed., Oxford University Press, New York.

Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus: How Language Is Represented in the Mind*, Oxford University Press, Oxford.

#### 付記

本稿は、日本英語学会第32回大会(2014年11月8日、9日、於 学習院大学)における研究発表に基づくものである。質疑応答の折、岩田彩志、柏野健次の両先生に有益なコメントをいただいた。また、中右実、廣瀬幸生の両先生には、草稿にお目通しいただき、ありがたいご助言と励ましのお言葉をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。